

ジョブコーチ活動報告

※月に1回を目安に更新をしています。

タイトル 「1年の振り返り」	ジョブコーチN	Vol.172	2月
<p data-bbox="240 443 1356 524">今年度4月に入職し、早いもので10ヶ月が経とうとしています。その中で最も印象に残っているAさんとの出会いから、気づいたことについて報告致します。</p> <p data-bbox="240 589 1356 669">Aさんは20年間、和菓子屋で働いてきました。学校卒業後からずっと真面目にコツコツと頑張られていましたが、体力的な面から退職されることになりました。</p> <p data-bbox="240 685 1356 1155">面談とアセスメントを行ったあと、当センターで行うパソコン講座事務補助コースにも参加していただきました。というのも、ご本人の希望もあり、体を使う仕事から事務的な仕事に変わりたいとの希望があったからです。アセスメントでは、ご本人のまじめで穏やかな人間性と、どんなことも丁寧に仕事をされる姿が印象的でした。ご本人も早く就職したいという思いがありましたが、講座への参加でご本人の強みと弱みを整理し、長く仕事を続けられるような支援ができるのではと考え提案したところ、ご本人も納得され講座に参加されました。約3週間の講座中、毎日休むことなく通い、熱心に学ぶ姿は講師や周りの参加者からも高い評価を受けました。講座の修了式には、達成感があったのか、ご本人も感極まって涙を流されたほどでした。そんなAさんを拝見しているこちらも背筋がピンとする思いでした。</p> <p data-bbox="240 1220 1356 1397">再就職への階段を上っていくAさんに、講座で学んだことを活かせる事業所での実習の提案をしました。業務内容、暖かい雰囲気のある事業所である、同居の母親との生活にも配慮して下さる点など、納得した内容の事業所での実習がもうすぐスタートします。本人も「頑張りたい」と大変喜んでいらっしゃいました。</p> <p data-bbox="240 1462 1356 1688">当センターには、1日でも早く就職したいと多くの方が相談に来られます。その中には、相談や支援を通して、Aさんのように講座に参加されることで自分の課題や良い点を整理される方もいます。自分の課題を直視することは時に辛いこともあるかもしれませんが、今後の就職にとってより良いものにすることができるとも思えます。</p> <p data-bbox="240 1753 1356 1834">私も入職してもうすぐ1年。日々を振り返り、支援の中で学んだことを今後につなげていけるよう、頑張りたいと改めて思いました。</p>			

<p>タイトル 「利用者支援も難しいですが…」</p>	<p>ジョブコーチF</p>	<p>Vol.171</p>	<p>1月</p>
<p>福岡市障がい者就労支援センターは、利用者の直接支援の他にも様々な事業をしています。今年度、私は就労移行支援事業所へ研修を企画する事業の担当をしています。</p> <p>就労移行支援事業所向けの研修は大きく分けて3種類。1つは、大きな会場で就労支援に関する講義や講話をきく研修会、2つ目は就労支援の実質的なスキルを学ぶOJT研修、3つ目はひとつひとつの事業所へ個別に研修を行うスタートアップ講座です。</p> <p>ここで私のことを紹介すると、病院施設への勤務歴10年ちょっと、ジョブコーチは4年目です。この事業、率直な感想は「難しい！」です。幸いなことにチームには経験豊富なメンバーがいるので、話し合いを重ねつつ魅力を盛り込みながら、事業は前に進んでいます。</p> <p>担当者での打合せでは、しばしば頭の中が真っ白になっている私です。何が難しいかということ、就労支援に対する知識や行っている支援について、いかに効果的に他者に伝えるかということなのだと思います。これまでは自分が知識を習得することばかりを考え、教える立場での目線がありませんでした。教えるという立場になることで、就労支援について、まず自分の経験や知識を整理すること、それを理論と結びつけることの必要性を感じました。また、伝えることを明確にし、順序だてて研修を組み立てることが必要だと先輩スタッフから学びました。手前みそですが、当センターには頼りがいのある優秀なスタッフがたくさんいて幸せだと実感しています。</p> <p>さて、上記のことを感じながら、私は少しずつ知識と経験を重ねていくしか方法はありません。刺激を受け、外部の研修などにも以前より参加するようになりました。まだまだ事業を担当するのは「難しい！」から脱せていませんが、これからも挑戦を続けていきたいと思っています。</p>			

<p>タイトル 「通勤について思うこと」</p>	<p>ジョブコーチK</p>	<p>Vol.170</p>	<p>12月</p>
<p>私事ではありますが、今月引っ越しをして通勤時間が今までの倍以上かかるようになりました。1日のうち3時間程度を通勤に使わなければなりません。</p> <p>高校生の頃同じように長時間の通学を経験していたので、大丈夫と高をくくっていたのですが、寄る年波のせいで体力が…。初日は、想像以上の疲れを感じてしまいました。</p> <p>しかし、数日通ってみて悪くないなぁと思えるようになりました。</p> <p>始発から終点まで乗っているのですと座っていられます。以前は、ラッシュの時間にギュウギュウ詰めバスに30分くらい立ったまま揺られていたので、かなり楽になりました。本を読むとか音楽を聴くとかちょっと居眠りをするなど、のんびり過ごすことができるのです。同じような通勤族の方たちを見回すと、朝食を食べたり、新聞を読んだり、何かの勉強をされていたりとそれぞれ充実した時間を過ごされているようです。</p> <p>時間だけを見ると大変と思えますが、家庭モードから仕事モードに仕事モードから家庭モードに切り替えるためには十分な時間が、確保できるようになりました。1日の過ごし方を頭の中でシミュレーションすることができ、以前に比べてダラダラと時間を使ってしまうことが減りました。</p> <p>支援をする中でも、今までは通勤時間は少しでも短いほうが良いと考えていましたが、少し視点を変えるとそうでもないのかもと思いはじめました。</p> <p>先月就職が決まった方も、早良区の自宅近くの職場と東区の職場と2か所見学をした上で、仕事の内容が自分に合っているからと東区の職場を選ばれました。職場からもすごく助かると高い評価を受け、採用になり毎日バスを乗り換えて、元気に通っておられます。本当にやりたいこと、好きなことのためなら早起きも苦にならないようです。</p> <p>12月に始まった長距離通勤では、バスの中で夜明けを迎えています。朝日を浴びてバスに乗り込む春には、私も何か新しい楽しみを見つけて今より充実した時間を過ごせるようになっているといいなぁと思います。</p> <p>今年もお世話になりました。来年も、福岡市障がい者就労支援センターをよろしくお願いたします。皆様どうぞ、良いお年をお迎えください。</p>			

タイトル 「私の同業種交流会」	ジョブコーチN	Vol.169	11月
--------------------	---------	---------	-----

紅葉の秋もアツと言う間に過ぎ、年末に向けあわただしい時期となってきました。

当センターでは、『同業種交流会』という仕事に共通する点がある方にお集まりいただき交流をする会をここ数年開催しています。この会は、ご登録の方で、お仕事をされている方を対象としており、この秋にも開催したところです。

参加していただく方には、日頃感じたことや悩み、嬉しかったこと等をお話していただいたり、余暇の過ごし方の交流等を通して、また明日から頑張ろうというお気持ちになっていただければいいな、という思いで毎回準備をしています。

さて、今年の秋は、私も『同業種交流会』を体験することができましたので、そのご報告をさせていただきます。

ジョブコーチの仕事に関する勉強をする機会があり、同じ仕事をしている方々と1週間に渡り交流することができました。また、つい先日は、学生時代の同窓会で、福祉に関わる仕事、就労支援をしている仲間と約10年ぶりに再会することができました。どちらもまさに『同業種交流会』です。

共通の話題を持つ方、同じような経験をしている方との集まりですので、不安に思っていることや悩みを話すことができると同時に、仕事の進め方のヒントや工夫も教えていただくことができ充実した情報交換の場となりました。

真面目な話ばかりではなく、楽しい会話が弾むと、とっても元気が出て、また頑張ろうという気持ちになることもできました。そういう気持ちになれたのは、会話する中で、日頃考えていたことを振り返ったり、初心を思い出したりして、たくさんの気づきを深めることができたからだと思います。

人と人の出会いや直接に顔を見てお話をすることは、あたたかく力強いパワーがあると実感することができました。その中に共通の話題があれば、なおさらです。

今回の経験を通して、センターの『同業種交流会』も、参加してよかったと思っていただけるような『場』になるよう更に頑張っていきたいと思いました。

タイトル 「就労継続へのアプローチ」	ジョブコーチI	Vol.168	10月
<p>皆様、日本の代表的な風物詩でもある「中秋の名月」は、ご覧になったでしょうか？私はこの夜、月を眺めながら当日支援に行ったAさんのことを思い浮かべていました。</p> <p>約半年前、職場から「雇用の契約更新は難しい」と言われていたAさんの更新有無の判断がこの日ありました。</p> <p>知的障がいのあるAさんは、厨房での食器洗浄や調理補助として入職し4年半になります。文章理解や数字の操作が苦手でしたが、清掃や食器洗浄作業で力を発揮しその仕事ぶりは職場でも絶賛された程です。それが何故4年後には「契約更新は難しい」ことになったのか。職場からご相談があり訪問すると、これまでの自信が過信となり態度や口調が驚くほど変化していました。再三にわたる上司やスタッフの注意も聞き入れず、職場で扱い難い存在になっていたのです。</p> <p>ここで私は、センターで学んだはずのフォローアップの大切さに改めて気付かされました。離職の原因は、些細なことの積み重ねであることが多く、その兆しを早めに把握し深刻な状況になるのを防ぐための定期的なフォローアップが疎かになっていたのです。</p> <p>Aさんの気持ちを聞き取ると、複雑な感情が反発となり勤務態度に表れているようでした。相手によって態度を変えたり業務の一部も放棄していました。それでも「働きたい」と言われ、職場にお伝えすると、勤務態度が改善すれば働き続けてほしいとの返答でした。元々真面目で6時半からの勤務に遅刻、欠勤のないAさんを職場は評価していました。</p> <p>何とか双方の希望を叶えたいと就労継続へのアプローチに取り組みますが、少しずつ崩れた勤務態度の立て直しは容易ではありませんでした。</p> <p>Aさんと職場、ジョブコーチで課題や目標を共有するために定期的な面談を行いました。すると、Aさんは時間の経過と共に周囲に大きな負担を与えていると気付いてきたようでした。ある時、「仕事の心構えとビジネスマナー」を作成し現状と比較したところ、「そのプリントください」そして、「絶対守ります」と自主的な取り組みがみられるようになっていきました。</p> <p>そして、この日上司から「大きく改善がみられた」とのことで契約更新が交わされました。「契約更新は難しい」からの再スタートではありましたが、そこからの職場のご協力とAさんの努力に感謝しつつ、私自身はフォローアップを疎かにしないよう肝に銘じた一日となりました。</p>			

<p>タイトル 「踏み出す一歩、発信する力」</p>	<p>ジョブコーチ T</p>	<p>Vol.167</p>	<p>9月</p>
<p>この夏、西日本では厳しい猛暑が続きましたが、近頃では日一日と秋の深まりを感じる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。</p> <p>さて今回は、就職に向けて動き出している A さんについて報告します。</p> <p>A さんは特別支援学校を卒業後 1 2 年間食品製造工場で働いていました。今回、家庭の事情で退職をされ、これからの仕事の相談でお見えになりました。</p> <p>就労に向けアセスメントを含めた面談を 4 回行いました。初回面談はお母様と来所され、A さんは尋ねたことに頷いたり首を振るのみでした。面談 2 回目以降はお一人で来所され徐々に声を聞けるようになりました。面談を重ねる中で、「早く仕事に就きたい。」という揺るがない思いと初期緊張が強く自己発信が苦手なことがわかりました。</p> <p>その後 A さんは当センターで実施しているスキルアップセミナーに参加されました。スキルアップセミナーは、これから就職を目指す方の就労準備性を高めるための当センターの事業の一つです。初対面の人の中で声を出すことが苦手な A さんですが一生懸命学ぼうとする姿勢が見られました。</p> <p>セミナー終了後の面談で、「早く就職したい。食品に関わる仕事をしたい。」という思いを教えてくださいました。このため、スーパーでの体験実習の提案をするとすぐに希望されました。店舗で品出しをするため店内に出ることもあり、お客様への挨拶やお声掛けが必須であることを伝えると「頑張ります。」という返事が返ってきました。面接を経て、青果部門での 2 週間の実習が決まりました。</p> <p>実習初日に目標を聞くと、「大きな声で挨拶を頑張る。」という答えが返ってきました。事業所のご配慮で、慣れない作業も様子を見ながら教えていただき、それに応えるように A さんも集中して説明や指示を聞き作業に取り組んでいました。</p> <p>はじめの頃は何か困ると「どうしよう。」という表情で支援者の方を振り返っていた A さんでしたが、実習が進むにつれて表情も和らぎ、報告や質問相談など自己発信ができるようになりました。</p> <p>体験実習の帰り道、A さんは趣味の話をいきいきとした表情で話してくれました。A さんは話すことは苦手ですが、話すのが嫌いなわけではないようです。自己発信が苦手な A さんですが、これからも就職そして長い職業人生で経験を重ね発信する力を高めていけるよう支援者の一人として関わっていきたいと思います。</p>			

<p>タイトル 「環境変化への対応」</p>	<p>ジョブコーチ M</p>	<p>Vol.166</p>	<p>7月</p>
<p>倉庫内作業をされている方の支援の報告をします。</p> <p>発達障がいのあるAさんは、長年この職場で商品管理の仕事に携わっておられる男性です。</p> <p>この春、職場からAさんの事で相談がありました。特定の方に対して突然大きな声で怒鳴ることがあり、怒鳴られた方からこのまま働くのは不安だと相談があったそうです。Aさんは普段から真面目で、生産性も高いので、会社としてはこれからも働いて欲しい、解決する良い方法はないかとのご相談でした。</p> <p>その後職場訪問をしてAさんと面談を行い、職場からセンターに相談があった内容をお伝えしました。Aさんは怒鳴ってしまった相手への不満は無いようで、周囲の人に大きな声をあげてしまうのは、自分が辛い状況にあるためではないかと心の内を話してくださいました。「特に夕方からは派遣社員も入って人数が増え、広い作業場に様々な人の話し声や機械音があふれるので、いちばんその時間が辛いです」と。以前は人数も少なく音も今ほどあふれていませんでした。扱うアイテムが増えて来たので次第に人も機械の音も増えてきました。耳栓をして対応されていましたが、もう対応できなくなり限界が来ていたのです。面談後、話の内容をジョブコーチから上司に報告しました。</p> <p>数日後、再度職場から連絡があり、同じ方にまた大声を出されたと連絡がありました。職場で2度目の面談をしました。何度も自分自身のことを反省され、「これ以上働き続けることは難しいでしょうか」と話されていました。</p> <p>職場の方に、Aさんの担当する部署に音や人数の配慮をして頂く事は可能か相談をしました。</p> <p>すると直ぐに対応してくださり、Aさんは違う階の大型商品を扱う部署に異動する事になりました。そこはスタッフの人数が少なく、比較的静かな環境でした。「疲れている」とのお話しもあったので、次第に長くなっていた勤務時間を少し短くしてスタートする事になりました。</p> <p>耳栓は必要無くなり、働きやすくなったと話してくださいました。以前の辛そうなAさんの表情が、今は穏やかになったことがうれしいです。また、何とかならないかとご相談くださった職場の方のお気持ちに感謝しています。雇用が長く続く為には、職場のご理解と配慮が必要だと改めて感じたケースでした。</p>			

タイトル 「ピンチはチャンス」	ショブコーチ T	Vol.165	5月
<p>私の好きな言葉の一つに、「人間万事塞翁が馬」があります。今でも何かある度に考えさせられる言葉です。</p> <p>今年で勤続 4 年目を迎える A さん(30 代男性・発達障がい)は、配食系の会社で事務業務をされています。もともとコミュニケーションにあまり自信が持てず、職場での相談は必要最小限になっていた A さん。仕事柄女性が多くいらっしやる環境で、休憩は黙々と過ごすことが多い様子で、その時々溜め込んだ気持ちをうまく吐き出せないことがありました。</p> <p>仕事では「よく頑張っており、助かっている」と評価され、契約社員から A さんの希望でもあった正社員へ登用され、ますます張り切られました。それからは、イレギュラーな仕事を頼まれたり、歓送迎会など業務外のイベントがあったりすると、不安定になることもあり、主治医から必要なら頓服を飲んでも良いと言われていました。すぐには薬に頼りたくない A さんは少しでも気持ちを晴らそうと、何かあると休憩時間にセンターへ連絡するようになりました。電話は 1 日 5 分程ですがほぼ毎日という週もあり、そのような支援は長期的に厳しいのではと思い、私はきっかけをうかがっていました。</p> <p>そんなある日、A さんが新しい仕事を任されました。そこで業務量が増えペースを掴めず、スタッフから厳しく指摘された A さんは電話口で「転職しようかな」と動揺しています。これまでで一番後ろ向きな言葉だったので、一時は職場訪問まで検討しましたが、そこで冒頭の言葉を思い浮かべ、まずはナチュラルサポートをより引き出すために、A さんから上司へ直接相談してみてもと、背中を押すことに…。</p> <p>後日、A さんから電話があり、「上司に話すと親身に聞いていただき、業務量を調整することになった」と、晴れやかな声で報告がありました。A さんから「会社で相談できると思うと、働きやすくなりました」と聞いて、私も嬉しくなりました。それ以降、電話の頻度はというと月に 1、2 回ありますが、ピンチをチャンスに変えられた A さんをこれからも陰ながら応援していこうと思います。</p>			

タイトル 「私の支援の先生」	ジョブコーチO	Vol.164	4月
<p>私は昨年の6月にジョブコーチとして入職しましたが、元々はリハビリテーション室で作業療法士として訓練をしていました。同じように見えるかもしれませんが、「訓練」と「支援」は違うところがたくさんあります。今、日々の「支援」の中で迷った時、いつも思い出す1人の男の子、Aくんがいます。今回は、そのAくんのお話をさせていただきたいと思います。</p> <p>今から15年ほど前、私は脳性マヒの方の施設で訓練をしていました。小6のAくんは車いすを利用し、意思に反して体に強い力が入るため食事もうまく呑み込めずにむせてしまいます。言葉を発することも苦手です。私はAくんが、「正しい姿勢で」「正しい食べ方」ができるように、食事や姿勢の訓練を続けていました。</p> <p>夏休み、Aくんは「1人でキャンプに参加する」という大きな挑戦をしました。家を離れるのは初めてです。Aくんと何年も食事訓練をしてきた私は「私がいるから大丈夫！」と自信満々に言いました。</p> <p>当日、元気に走り回るお友達の中でとても楽しそうに参加していたAくんでしたが、食事の時間になり「ご飯たべよう」と私がスプーンを差し出すと、途端に難しい顔になりました。頑として口を開けないのです。私はとても混乱しました。やっと最小限の水分が取れただけでキャンプは終了してしまいました。</p> <p>施設に帰って、ふと後ろを見るとそこには大きな口を開けてニコニコしながらパクパクご飯を食べているAくんの姿がありました。ご飯を食べさせているのは走り回っていた友達でした。私はガン、と頭を殴られたような思いがしました。もちろん、訓練士としては「正しい姿勢、食べ方で食べてほしい」という気持ちがあります。でも、その日Aくんは友達と楽しく食べたかったです。それが希望だったのです。私はそれに気づかずに、自分が「正しい」と思う意見を押し付けてしまいました。「どう食べるか」を選択する権利はAくんにあるのです。私はそのAくんの思いを第一に、「支援」するべきでした。</p> <p>今もその時のAくんはいつも私の中にいて「自分本位の支援になってない？」と問いかけてくれます。Aくんが私に「支援とは何か」を教えてくれたと思っています。Aくんに恥じない支援者になりたいと、いつも思っています。</p>			